

平成29年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実 施 報 告 書

HT29045

特別支援教育に関わる心理実験を体験しよう



開催日：平成29年9月10日(日)  
実施機関：北翔大学  
(実施場所) (図書館2階)  
実施代表者：石塚 誠之  
(所属・職名) 教育文化学部教育学科 講師  
受講生：高校生2名  
関連URL：

【分かりやすく工夫した点】

受講生に研究成果を分かりやすく伝えるため、super lab で作成した心理実験課題・唾液アミラーゼによる生学的検査を体験する機会を持ち、データの取得方法について紹介した。また、取得したデータの分析、解釈、発表までの一連の研究の流れについて学習した。

今回のプログラムでは、知覚判断課題と数値判断課題を実施し、同じ刺激に対しても標的課題によって反応時間やエラー率が異なることを理解してもらうことを第一のテーマとした。また、第二テーマとして、数ストループ干渉による二次的な情報が判断にどのような影響を与えるのか、それにおけるストレス反応がどのように生じるか仮説を立て考える機会を持った。受講生の活動をサポートするため、super lab で作成した心理実験課題・生学的検査の被験者を受講生に依頼し、実施のサポートを手伝い学生に依頼した。また、受講者が実施協力者に対して、課題の教示等をする場面を作り、検査実施者としての体験も行った。分析では学生スタッフとともに、データの見方や分析の考え方について考え、時にアドバイスを受けた。また講義では、アクティブラーニングの形式を採用し考えを深めた。プログラムの実施に際し、学生スタッフには一連のプログラムの予行練習をさせた上で、教示についても体験させ、学生教育の場としても活用した。受講生には、各自が立てた仮説、それについてどのように考えたのかプレゼンテーションをしてもらった。プレゼンテーションでは、講義「特別支援に関わる心理実験」の内容を参考として、分かりやすく自身の考えを表現するようアドバイスを行ったが、各自、自身の考えを整理した上で期待以上のプレゼンテーションを行っていた。



【開会式】



【実験 唾液アミラーゼ測定】

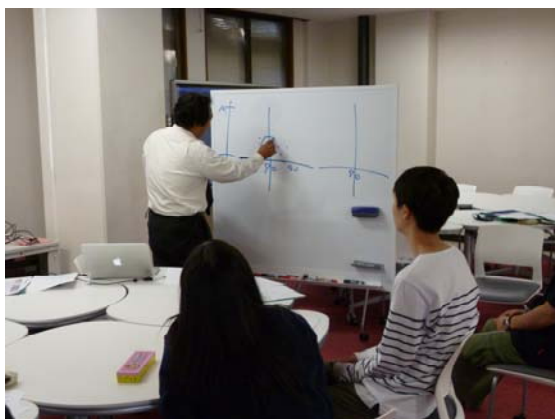
時間	内容
10:30 ~ 11:00	受付（北翔大学 図書館 2F 多目的演習室）
11:00 ~ 11:15	開会式（挨拶、スタッフ紹介、オリエンテーション、科学研究費について）
11:15 ~ 12:00	実験の体験(superlab の課題実施前後の唾液アミラーゼを測定)
12:00 ~ 13:00	お昼休み、施設見学会
13:00 ~ 13:45	講義「特別支援教育に関わる実験課題・分析の基本」
13:45 ~ 14:00	模範プレゼン（講演者：学生スタッフ）
14:00 ~ 14:30	交流の時間（クッキータイム）
14:30 ~ 15:15	各班で分析（適宜休憩） <ul style="list-style-type: none"> <li>・データの意味を考える</li> <li>・分析のポイントを考える</li> <li>・データをグラフ化する</li> <li>・パワーポイントで発表スライドを作る</li> </ul>
15:15 ~ 15:30	分析結果のプレゼンテーション
15:30 ~ 15:45	修了式 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート記入</li> <li>・未来博士号授与</li> </ul>
16:00	解散



【クッキータイム】



【分析中】



【まとめタイム】



【未来博士号授与】

### 【事務局との協力体制】

事務局には、以下の業務を依頼した。綿密な打ち合わせ、協力体制のおかげで、無事にプログラムを終了することができた。

(1) 企画書・業務委託契約書・実施計画書・報告書の取り纏め、発送、変更・修正等の手続き業務 (2) 各書類の保管などの業務 (3) 委託費の出納管理、収支報告書の作成、(4) 学術振興会への不明点・確認事項の照会業務、連絡調整 (5) 損害保険契約業務 (6) 学内においてHP掲載依頼、学内への周知業務など

### 【広報活動】

近隣の高等学校に対して本事業をPRした。

大学の広報部署と連携し、大学の広報誌やHPに募集案内を載せた。

大学オープンキャンパス等で本事業についてアピールした。

高大連携校に本事業をPRした。

### 【安全配慮】

実習内容の理解促進・安全に配慮して受講生に補助学生を配置する。

実習の際に、実験課題を行う受講者には、目の疲れ等に配慮し適宜インターバルをとる。

十分な休憩時間を確保し、身体的、心理的な負荷を減らす。

実施者・協力者・受講者全員傷害保険に加入する。

### 【今後の発展性、課題】

内容については、満足度が高く、参加者も難しいテーマに対して、熱心に取り組んでいた。内容が少し複雑なため、受講者の興味を引ききつつ、理解を深める工夫が必要である。受講者が実施協力者と共に学ぶことができたが、受講者同士が学び合える工夫、よりコンパクトに研究内容の理解を深める手立てを検討する必要がある。また、部活の大会等と重なり、参加希望があったが、参加できないという声があった。今後の発展としては、日程の再検討を行うとともに、広報に力を入れ、さらに多くの学生に参加してもらうことにつなげていきたい。

### 【実施分担者】

【実施協力者】            4            名

【事務担当者】            長堀   一之                            総務部総務課長